

(社)日本原子力学会 第30回 標準委員会 (SC) 議事録

1. 日時 2007年12月13日 13:30～16:00
2. 場所 原子力安全基盤機構 別館13階 13A, B会議室
3. 出席者 (敬称略)
 - (出席委員) 宮野 (委員長), 田中 (副委員長), 饗場, 石島, 岡本太, 神田, 喜多尾, 北島, 三枝, 阪口, 常松, 辻, 百々, 西岡, 西脇, 林, 原, 松本, 山根 (19名)
 - (代理出席委員) 梶本 (平野代理), 田中 (青柳代理), 成宮 (千種代理) (3名)
 - (欠席委員) 岩田, 岡本孝, 小川, 重政, 柴田, 柳沢, 吉田 (7名)
 - (欠席常時参加者) 板垣, 中村, 古川, 宮川 (4名)
 - (傍聴者) 笠井, 河井, 佐久間 (原技協), 川上 (原安協), 山本 (原環センター), 藤田 (原子力エンジニアリング) (6名)
 - (事務局) 岡村

4. 配付資料

配布資料

- SC30-1 第29回標準委員会議事録 (案)
- SC30-2-1 人事について [標準委員会] (案)
- SC30-2-2 人事について [専門部会] (案)
- SC30-3-1 発電炉専門部会活動状況報告
- SC30-3-2 原子燃料サイクル専門部会活動状況報告
- SC30-4-1 日本原子力学会 原子力発電所地震安全特別専門委員会
- SC30-4-2 “原子力法制の在り方” 検討委員会 (略称: 原子力法制検討会)
- SC30-5-1 「余裕深度処分の安全評価方法 (案) (中間とりまとめ)」について
- SC30-5-2 「余裕深度処分の安全評価方法 (案) (中間とりまとめ)」について (OHP資料)
- SC30-5-3 余裕深度処分の安全評価方法 (案) (中間とりまとめ)

参考資料

- SC30-参考1 標準委員会委員任期 一覧表
- SC30-参考2 標準委員会及び各専門部会開催スケジュール(案)
- SC30-参考3 講習会開催案内 (地震P S A標準)

5. 議事

(1) 出席者，資料の確認

事務局より，開始時点で委員 29 名中代理を含めて 21 名の委員が出席しており，決議に必要な委員数（20 名）を満足している旨，報告された。

(2) 前回議事録の確認

事務局より，前回議事録について紹介し，承認された。（SC30-1）

(3) 人事について（SC30-2-1， 2-2）

a. 標準委員会

①新任：なし

②再任：西脇委員、松本委員、山根委員、林委員が再選任された。

③退任：なし

b. 原子燃料サイクル専門部会

①新任：猪俣委員，松尾委員の新任が承認された。

②再任：前川委員の再任が承認された。

③退任：杉山委員，倉崎委員の退任が報告された。

c. 発電炉専門部会

①新任：なし。

②再任：平野（光）部会長，平野（雅）委員，遠山委員の再任が承認された。

③退任：なし。

(4) 専門部会活動状況報告

a. 発電炉専門部会

1) 第 28 回実施状況報告（SC30-3-1，（SC30-参考 3））

2) 事務局より発電炉専門部会の活動状況を報告した後，PLM 分科会幹事藤田氏より原子力発電所の高経年化対策実施基準改訂版の検討状況が報告され了承された。また，梶本委員より，標準委員会の改組に関しては，発電炉専門部会にてもう少し議論したいとの報告があり，了承された。

b. 原子燃料サイクル専門部会

1) 第 29 回実施状況報告（SC30-3-2）

事務局より，第 29 回原子燃料サイクル専門部会の活動状況が説明され了承された。また，サイクル専門部会の発行済み標準の改定・廃止の要否に関する検討結果が提案され，承認された。

主な議論：

- ・ サイクルの各標準が、互いにどのように関連しており、どのようなスケジュールで進めているのかわかりにくい。個別の標準策定とは別に検討して欲しい。
- ・ 臨界管理の標準は、ウラン加工や再処理施設を念頭に作成した物であり、発電炉の制御棒引き抜け事象等を反映するかどうかは、慎重に考えるべき。
- ・ 臨界管理の標準は、テキストとして有用とのことであるが、残念ながらあまり知られていない。もっと周知するとともに、より現場で使いやすい物にして欲しい。

(5) 原子力発電所地震安全特別専門委員会並びに“原子力法制の在り方”検討委員会の設置について (SC30-4-1, 2)

宮野委員長より、両委員会の設置と、事務局を標準委員会事務局が務めることの報告があった。

(6) 「余裕深度処分の安全評価方法 (案) (中間とりまとめ)」の審議 (SC30-5-1~3)

余裕深度処分安全評価分科会の川上主査より、「余裕深度処分の安全評価方法 (案) (中間とりまとめ)」の概要説明が行われた後、山本幹事より内容の説明が行われた。また、次回標準委員会での本報告を予定している旨報告があり、各委員はコメントが有れば事務局に送ることとなった。

主な議論：

- ・ 本標準は、何をやる標準なのか位置づけを明確にして欲しい。適用範囲では、安全評価手法というよりパラメータを規定しているようにも見える。また、評価の対象となる時間スケールについて書く必要がある。
- 解説にはある程度背景も含めて書いている。適用範囲の書きぶりは工夫したいと思うが、発電炉の標準でも、本文に原子炉の説明等は載せておらず、ご理解いただきたい。
- ・ 難解な概念の標準であり、説明においては、バックグラウンドも含めた説明が必要。
- ・ 高レベルとの違いがわかりにくい。違いを示して欲しい。
- ・ 既に標準として発行されている、極めて放射能レベルの低い放射性廃棄物処分の安全評価手法：2006と比較すればわかりやすいのではないか。
- 本報告では、説明を工夫したい。
- ・ 基本、変動、稀頻度などは、どのように定義しており、何を根拠に区分するのか。
- プラントにおけるポンプの故障確率のような、明確なデータは埋設については何もない。定義をなるべく分かりやすくしたい。

- ・ 被ばく評価の対象が，建設作業者と居住者というのは違和感がある。
→ 被ばくの多くなる人を選ぶとこうなる。
- ・ 4章の安全評価シナリオの分類名と，7章の項目毎の表題は揃えられないか。
→ 処分システムと被ばく経路の組み合わせで分類されるので，難しい。

6. 次回以降の予定 (SC30-参考2)

次回委員会は，3月13日（木）13:30～となった。また，宮野委員長より，来年度上半期の予定を6月，9月に仮設定した旨，報告された。

以 上